

埼玉県の高校図書館司書が選んだ ◆ イチオシ本2020 ◆

埼玉県内の高校図書館で働く司書が、2019年11月～2020年10月に出版された本の中から、「高校生にぜひ読んでほしい!」と思うものを選びました。



『雲を紡ぐ』



『なぜ僕らは働くのか』



『水を縫う』



『逆ソクラテス』



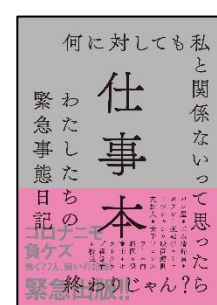
『おとめ六法』



『晴れ、時々くらげを呼ぶ』



『わたしの美しい庭』



『仕事本
わたしたちの
緊急事態日記』



『あなたを閉じこめる
「ずるい言葉」』



『夜明けのすべて』

ランキングの詳細は、「埼玉県高校図書館フェスティバル」のホームページでも見ることができます。

<http://shelf2011.net/>



ただ今展示中



埼玉県の高校司書が選んだイチオシ本2020

「埼玉県の高校司書が選んだイチオシ本 2020」で、トップ 10 に入った作品を中心に展示をしています。

毎年、バラエティ豊かな本が並ぶ「イチオシ本」。

今年は特に、小説がたくさん選ばれるという結果になりました!

著者や編集者の方々からのメッセージも届いているので、ぜひ見に来てくださいね。

ちょっと気になる新着図書



『仕事本 わたしたちの緊急事態日記』

左右社編集部/編

「イチオシ本」でも第8位に選ばれた本作は、初めての緊急事態宣言が出された2020年4月に、様々な職業の人たち77人が綴った日記を集めたものです。

パン屋、内科医、校長先生…、それぞれどのような思いで日々を過ごし、仕事と向き合っていたのか、それを垣間見ることができる内容となっています。

皆さんもぜひ、読んでみてください。



2020年本屋大賞ノミネート作品発表



「本屋大賞」とは、全国の書店で働く書店員が過去1年間に出版された小説の中から、「お客様にぜひ薦めたい!」と思った作品を選び投票するものです。

今年は、546人からの投票の結果、右記の10作品がノミネートされました。

大賞の発表は、4月14日(水)です。

お楽しみに!



『犬がいた季節』 伊吹有喜/双葉社

『お探し物は図書室まで』 青山美智子/ポプラ社

『推し、燃ゆ』 宇佐見りん/河出書房新社

『オルタネート』 加藤シゲアキ/新潮社

『逆ソクラテス』 伊坂幸太郎/集英社

『この本を盗む者は』 深緑野分/KADOKAWA

『52ヘルツのクジラたち』 町田そのこ/中央公論新社

『自転しながら公転する』 山本文緒/新潮社

『八月の銀の雪』 伊与原新/新潮社

『滅びの前のジャングリラ』 風見ゆう/中央公論新社